



今の特集 「鬼は外、福は内！」

もうすぐそんな声があちこちの家から聞こえる季節となりました。

節分とは 元来、節分とは「季節を分ける」ことから「節分」です。現在では節分といえば立春の前日だけを指すようになりましたが、季節の始まりを示す立春、立夏、立秋、立冬の前日はいずれも節分なのです。

現在のように立春の前の節分が特にありがたがられる理由ですが、旧暦の時代では「立春正月」などといい、一年の始まりを立春付近に求めたことから、その前日は年の最後の日という意味合いを持ったと考えられます。このように年を分ける「節分」ということで、ほかの3つの節分より重要な位置を占めたのではないのでしょうか（旧暦でも本当は「立春」が必ず正月にあるわけではありませんので、この点ご注意ください）。

節分と豆まき

節分の日には、炒った豆を年神に供えたあと、その豆を年男（その年の干支の生まれ）が「鬼は外、鬼は外、福は内」呼ばわりながら蒔きます。このとき蒔かれた豆を自分の年の数だけあるいは、年の数+1だけ拾って食べ、一年の無病息災を願う風習があります。

この「鬼は外」については、中国から渡来し宮中で行われていた「追儺（ついな）」の行事と寺社が邪気をはらうために行った「豆打ち」の儀式が融合したものだといわれます。追儺は「弓矢などで悪鬼、厄神などを追い払う行事」で、年の暮れに行われていました。豆打ちは豆まきともいわれ、その言葉通り豆やカチグリを蒔いたもので、節分の日に行われました。

なぜ豆を蒔く？

穀物や、果実には「邪気を払う霊力」があると考えられており、豆を蒔くことで豆の霊力により邪気を払い、福を呼び込むと考えたのでしょう。豆とは違いますが、イザナギが黄泉（よみ）の国の亡者を追い払うのに桃を投げつけるなどの神話も、穀物や果実の霊力によって邪気を払うという点で同根の話でしょう



梅の花

花が開くことによって春を知らせてくれる自然の暦。
「しら梅に明る夜ばかりとなりにけり」（蕪村）

蕪村には梅を詠った句が多い。最後の瞬間も梅の花を気にかける蕪村である。

親子すまいかた教室

住まいのなかの家具

監修 文化女子大学講師 谷口久美子さん

仕切りとして使う家具

みなさんの住まいには、部屋がいくつありますか。大きな家でしたら、いくらでも部屋をつくることはできますが、現代の平均的な日本の住まいは、それほど広くはありません。台所や食堂、居間、客間、子ども室など、必要な部屋をひとつずつつくと、かえて使いにくいし、窮屈（きゆうくつ）な家になってしまいます。

小さな部屋をいくつもつくるのではなく、なるべく広い部屋をつくり、家具で区切るとどうでしょうか。居間と食堂の間や、子ども室などに、両側から使える収納家具や背の低い家具、かんたんに動かせる間仕切りなどを置くと、ひとつの空間なのに、



それぞれのスペースをつくることができます。つまり、きっちり空間を分けるのではなく、柔らかく区切るという感じ。こうすると、その時々暮らし方に依ってスペースの調整ができ、しかもお互いが一緒に暮らしている気配を感じられるので、お互いを思いやる気持ちも生まれますよね。

家族のコミュニケーションと家具

住まいの中で、家族みんなが集まる場所はテーブルのある居間や食堂。そこで、食事をしたり、お茶を飲んだり、みんなでおしゃべりをしたりしますよね。テーブルは、家族同士のコミュニケーションのための大切な家具です。ダイニングテーブルは、家族のみんなできちんと食事ができる大きさがいいですが、さらに大きさに余裕があ

ると、本を読んだり、勉強やインターネットをしたり、アイロンをかけた後、家族みんなで、いろいろな使い方をすることができます。テーブルには、大きさが変えられたり、引き出しがついたり、みんなで料理を楽しめるようにコンロが埋め込まれたものなど、いろいろ工夫されたものがあります。例えば、テーブルの脚にキャスター（車輪）のついたもので、庭やデッキに移動させて、ガーデン・パーティーを楽しむことができますよ。

私の場所をつくる家具

自分専用の部屋がほしいけれど、家が狭いと個室はなかなかもてません。しかし、上手に家具を使えば、自分だけの空間をつくることができます。居間のコーナーや廊下の突き当たり、階

段の下など、ちょっとあいたスペースがあれば、前号の親子すまいかた教室「家具の形と大きさ～場所に合わせて組み立てる」で紹介したシステム家具などを利用して、ひとり分の小さなテーブルや棚などを組み立てれば、自分だけのコーナーになります。また、ひとつの子ども部屋を兄弟・姉妹で使っている人でも、それぞれのベッドや机などの置き方次第で、ほかの人の視線があまり気にならず、しかも便利に使える自分専用のスペースをつくることができます。兄弟・姉妹と一緒に部屋を使うときには、どんな風にしたいか、みんなですべての案を出し合ひましょう。

よく話し合って決めれば、お互いに居心地のいい空間になりますよ。

瓦版2月号

現場実況中継

～ホームページで毎日更新中の現場のようすを瓦版でもご紹介～

◇安曇野市三郷 Tさま邸 (新築・3月完成予定)



コーキング工事

サッシの防水性を高めます。

◇安曇野市 Yさま邸 (新築・3月完成予定)



大工工事

無垢のカバ桜を張っています。

◇安曇野市 Uさま邸 (新築・4月完成予定)



左官工事

下地のラス網が貼られました。

◇安曇野市豊科 Tさま邸 (新築・5月完成予定)



工事着工

基礎工事が始まりました。

◇松本市里山辺 Hさま邸 (新築・6月完成予定)



地鎮祭

工事の安全をみんなで祈願しました。

最新情報は木族の家
ホームページをチェック!!

[きぞくのいえ](#)

日本の巨樹紹介

大樹からのエネルギーを求めて

NO. 14 「あがりこ大王」

■国指定天然記念物

■所在地: 中島台レクリエーションの森(静岡県熱海市熱海木宮 阿豆佐和気神社境内)
にかほ市象潟町横岡字中島台 幹周 7.62m 樹高 25m 樹齢 300年(推定)



「あがりこ大王」

樹齢300年以上と言われている奇形ブナの木で、中島台レクリエーションの森(にかほ市)のシンボルツリーでもあります。

幹周りが7.62mもある大木、日本一の大きさの奇形ブナとして、森の巨人たち100選にも選ばれているブナでして、実物を見れば、大王の名は大きさではないというのが理解できますね。

「あがりこ」というのは、「芽が上がる」という株立ちをしている様子を秋田の言葉で表現しているものでして、いつしか、「あがりこ大王」と、このブナの木をそう呼ぶようになったとか。

このような奇形になった要因、自然の何か事件があったとか、人為的な事故だとか、諸説あるようですが、何れ、ブナの木が天に向かって成長しようとする偉大な力があつたこそだということですよ。

ちなみに、ここからは、鳥海山を望むこともできます。ブナ林に遮られ、分かりにくいものではありませんが・・・

数々の自然の変化に耐えここまで成長したブナの木、この森のシンボルツリー、そして大王として、いつまでも君臨していて欲しいなあと思いながら、この木を眺めていただいです。

2月	1 金	2 土	3 日	4 月	5 火	6 水	7 木	8 金	9 土	10 日	11 月	12 火	13 水	14 木	15 金	16 土	17 日	18 月	19 火	20 水	21 木	22 金	23 土	24 日	25 月	26 火	27 水	28 木	1 金	2 土	3 日
2013年	友引	八居宅見学会 会場:安曇野市 穂高柏原		大空	赤口	先勝	友引 上糠吉日	先負	仏滅	先勝	友引 建国記念日	先負	仏滅	大空 三隣亡	すまい りんく 発行日	先勝	友引	先負	仏滅	大空	赤口	先勝	くらしのフェス ティバル 会場:めいてつ ホール		仏滅	大空 三隣亡	赤口	先勝	友引	先負	仏滅